

とらいあんぐる菅生

<http://sugaochikyuu.web.fc2.com>

E-mail: toraianguru@mx81.tiki.ne.jp

発行: 菅生中学校区地域教育会議

編集: 情報委員会

当番校: 菅生中学校 TEL: 977-8787

事務局: 菅生こども文化センター

TEL&FAX 976-0444

寄り添う会 菅生分館と共催で「家庭・地域教育学級」を開催!!

7月から8月にかけて「寄り添う会」メンバーが中心となって、菅生分館職員とともに学習内容・講師などを検討し、いよいよ11月6日に開講します。学級の概要は以下のとおりです。10月16日から受付が始まっていますが、人数に余裕があれば途中からでも参加できますので、菅生分館 TEL044-977-4781 までお問合せください。

テーマ 子どもたちに居心地の良い家庭・学校・地域って? とともに学び、考えよう

対象 保護者・教職員・地域住民その他関心のある人

会場 菅生分館 無料

	日時	課題	講師
第1回	11月6日(金) 18:30~20:30	今、教育に何が起きているのか	尾木直樹 (教育評論家・法政大学教授)
第2回	11月27日(金) 18:30~20:30	私たち大人の「学校観」を問い直す	福田誠治 (都留文化大学副学長)
第3回	12月11日(金) 18:30~20:30	学校・地域・家庭の協働の可能性を探る	報告: 杉並区立井草中学校の学校支援本部
第4回	1月22日(金) 18:30~20:30	自分自身の子ども時代を振り返ろう	大枝奈美 (アトリエウェイブ代表)
第5回	2月5日(金) 18:30~20:30	子どもたちの心に、何が起きているのか	北村年子 (ルポライター)
第6回	2月19日(金) 18:30~20:30	子どもの心に寄り添うために	西野博之 (フリースペースたまりば代表)

「寄り添う会」の発足から

家庭・地域教育学級の開催へ

2008年12月、地域教育会議「特別委員会」として「寄り添う会」が発足しました。これは、子どもをめぐって、小動物への悪意的行為や、授業の不成立など懸念される状況が報告されたことに対して、大人たちに何が出来るのか、どうしたら子どもたちの心に寄り添うことができるのかを考えていこうというものです。「寄り添う会」は1月~6月に子ども関連施設のヒヤリングや話し合いを行ないました。その結果、学校・家庭・地域住民などが一緒に「現代の子どもの気持ち」を理解し、考える必要性を感じ、6月の総会で、菅生分館と連携して「家庭・地域教育学級」を開催することが承認されました。

子どもたちの心は満たされていない?

「寄り添う会」では、児童・生徒に深く関係する菅生中学校、菅生小学校、稗原小学校の3校、および菅生こども文化センター、蔵敷こども文化センターに対して、子どもとの関わりで気づいたこととその対応、問題解決に向けてできることなどについてヒヤリングを実施しました。

子どもたちとの関わりで、共通して気づいたことは「コミュニケーションが取りにくい」「イライラして

いてキレやすい」「喧嘩の限度が分からない」「自制がきかない」などで、「何か心が満たされていないのではないか」と感じているようでした。また、子どもたちの心を満たすためには、親の関わりでの必要性が指摘されていました。

また、学校では授業中に席についていられない子が1クラスに1~2人いるようです。そのために授業が成り立たないという現象がみられます。

こども文化センターの職員は、時には大人ぶってみたい、赤ちゃんがえりをしたりして「自分をかまっほしい」という、子どもからのシグナルを感じています。また、家庭や学校の不満やストレスのはけ口になり、物理的にも精神的にも「居場所」としての役割を担おうとしているようです。

地域でできることは?

「寄り添う会」では、ヒヤリングの内容を検討し、地域で何が出来るかを話し合いました。

• 子どもたちにとって、家庭とは雨露をしのぐ「家」=「ハウス」としての存在と、家族の安住の場としての「家庭」=「ホーム」でなくてはならないのですが、家族の団欒、親との語り合いがなく、子どもたちのホーム(家庭)レス化が進行しているのではないかと考えられます。
(次ページへ続く)

- 児童・生徒たちが先生の方を向いている一斉方式の授業形態では、立ち歩く子やおしゃべりする子を制止せざるを得ないのですが、一人ひとりの興味や到達度に応じ、子どもが生き生きと取り組める授業展開の工夫や、少人数学級の導入が必要なのではないかと話し合いました。

- 部活に生きがいを感じ、そのために中学校へ行っているという生徒もいる一方、部活を辞めた生徒を「帰宅部」と呼び、「落ちこぼれ」「根性無し」という目でさげすむような実態が垣間見えます。「部活を最優先」することで、地域での活動や家庭で家族とともに過ごす時間をも犠牲にしているのではないかと懸念されます。

- いわゆる「中学生らしさ」を求める教師をはじめとした大人たちへの不満の声も聞かれました。「小学生は髪を染めていても何にも言わないのに、なんで中学生になったらダメなの?」「すぐ校則って言うけど、だれが決めたの?」・・・子どもたちに寄り添うと



は、その論理をいったん受容した上で、大人として答えることから始まるのではないかと話し合いました。

- 神奈川県公立高等学校選抜試験では、学力審査をせず、内申点、面接、作文などで選抜する前期試験制度があります。内申点には、学業成績だけでなく、ボランティア活動への参加や部活での成績・段位の取得・部長経験、英検・漢検などの資格取得などによる加点があります。人間を学力だけで判断しないことには共感できるものの、中学生生活のあらゆる場面で内申につながりかねないという息苦しさが伝わってくるようです。また、内申の評価のずれにも疑問があり、そのような不公平感が、中学生の中にくすぶっているようにも思われます。

共に学びませんか？

このような思いから企画した「家庭・地域教育学級」のプログラムです。菅生分館の全面的な協力の下に開催され、多彩な講師陣が趣旨に賛同し、駆けつけて下さいます。共に学んでいただければ幸いです。

菅生中学校区に 大人も利用できる施設 2つのこども文化センター

開館時間	9:30~21:00 日・祝は18:00迄
利用対象	主として0歳~18歳 および市民活動団体
利用方法	いつでも自由に利用可 団体利用の場合要予約



菅生こども文化センター (菅生ヶ丘13-2 TEL:976-0444)
菅生3丁目バス停3分
<http://ww71.tiki.ne.jp/~akaiyanedayo/>



蔵敷こども文化センター (菅生5-3-21 TEL:977-2577)
蔵敷バス停1分
<http://park17.wakwak.com/~kskc5170kobun/>

菅生中学校区には、2つのこども文化センターがあります。地域住民のための公共施設ですので、より知ってみようとして菅生の針山館長と蔵敷の和泉館長にお話を伺いました。

こども文化センターってなに？

児童福祉法に基づいて建てられた児童館です。目的は「児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進するとともに情操を豊かにし、もって児童の健全な育成を図るため」とされています。

川崎市では、こども文化センターの前身である「青少年会館」を昭和35年に建設。「金の卵」といわれ地方から集団就職でやってきて高度経済成長を支えた勤労青少年のための施設でした。ちなみに市内初の

こども文化センターは、昭和48年に開設された「宮崎こども文化センター」で、現在では原則として中学校区に1カ所とし、市内59カ所のこども文化センターがあります。誰もが自由に行ける「屋根つきの遊び場」として子どもたちに「こ文」と呼ばれ親しまれ、大人たちの市民活動支援にも寄与しています。

こども文化センターが生活に役立つために

自由な遊び場として「場」の提供を行っているのと同時に、遊びを中心とした様々な事業展開もしていま

す。「こ文」の職員のポリシーとして「遊びの中から生活を学ぶような体験をたくさんしてほしい」ということがあるそうで、制約をできるだけ少なくし、とかく「危険」なので制止しがちな、火を使う、ナタやカッターを使うことなども、安全に様々な体験ができるように工夫しているとのこと。また、共同作業を通しての仲間作りも重視しているそうです。

もう一つ、「こ文」の特徴は、中高生がリーダーとして活躍できる場所であり、様々なイベントでリーダーを務めてもらっているそうです。例えば、菅生で33回を数えているキャンプは中高生の力なしではできない企画となっていますし、蔵敷ではお祭りなどで中高生リーダーの力が発揮されています。

子どもたちに選ばれるこども文化センターに

子どもたちにとって遊びは成長・発達に不可欠です。しかし、その遊びを提供する「こ文」が「子どもたちに選ばれなければどうにもならない施設」というのが、こども文化センターの宿命です。そこで「どうすれば子どもたちの生活の中で、選ばれて来館してもらえるか」そんなことを日々職員は模索し、事業運営にあたっています。

さらに、こども文化センターは、地域の中でも必要な存在、評価される存在にならなくてはなりません。そのために、地域との連携は欠かせません。菅生の場合は、「菅生こども文化センター運営協議会」という地域住民を中心とした協議会自身が指定管理者となり運営しています。蔵敷は、「(財)川崎市民活動センター」という団体(市内59ヶ所あるセンターのうち55ヶ所を管理する)が指定管理者となっていますが、地域の運営協議会と相談しながら運営されています。

地域コミュニティとしてのこども文化センター

「こ文」は児童厚生施設ですが、子どもたちだけでなく、市民活動支援も行っており、大人の方も利用できます。

主として子どもたちが学校に行っている時間帯に、未就園児の母と子による幼児保育や、フラダンス・手話・人形劇・囲碁・健康体操サークルなど大人たちの多くの地域団体・サークルが活動をしています。

「こ文」は、そうしたサークルへの入会の仲介や、新しくサークルを結成したい等の相談・支援を行い、地域住民同士のパイプ役ともなっています。また、センターのお祭り等を通じ、世代を越えた地域交流の場

にもなっています。

施設利用は、無料ですので気軽に相談してみてください。

子どもたちの第3の居場所

「こ文」は、制約が少なく受容範囲が広い施設です。例えば、髪を染めていようが、どんな服装であろうが、学校に行きたくない子であろうが・・・その子の「個性」を尊重し、「川崎市子どもの権利に関する条例」を遵守することを旨としているそうです。「学校にも家庭にも居場所が見つからない？」ちょっとやんちゃな中学生などでもホッとできる第3の居場所にもなっています。

職員は、彼らから「誰かに甘えたい」「ふれあいたい」「誰かに見て欲しい」という SOS サインを感じることが多々あるそうです。学校や家庭では見せない姿を通じて、個々の子どもについて、学校や親と話し合う機会がもてればと考えているそうですが、中々そこまで連携がとれていないのが現状とのこと。

しかしながら、地域教育会議など様々な場面を通じて学校との情報交換が行われており、「それぞれのモチベーションによって子どもを育んでいかなくてはならない」という気持ちが学校にもセンターにもお互いにあると感じているそうです。

菅生・蔵敷こども文化センターの連携

菅生も蔵敷も「こども文化センター」という施設目的は同じです。指定管理者(運営責任団体)が違うため、運営方法を細部まで統一できないのが現状だそうですが、子どもたちはどちらの「こ文」にも行っているので、共通の土壌は必要でないかと考えています。

そこで、今回初めて双方の職員が出席し、菅生中の先生を招いての研修を行うそうです。これを第一歩に少しずつ連携ができて共通基盤ができていけばと考えているとのこと。

取材を終えて

「教育」の場である学校と違い「遊び」の場である「こ文」。大人たちの「地域交流としての場」である「こ文」について存在意義をよく理解できました。

さて、昭和50年以来長年親しんだ、赤い屋根の菅生こども文化センターが、老朽化のため来年4月から建て替え工事に入ります。地元育ちのパパ・ママは、解体前には是非懐かしい菅生こども文化センターに行ってみてください。

Let's Try part II

~中学生の力は無限大∞~

実行委員会活動開始!!

昨年度に引き続き、菅生こども文化センターでは、中学生による自主企画「中学生の力は無限大 part 」が、菅生分館の協力を得て開催される。

新型インフルエンザによる菅生中学校休校などの影響を受け、10月16日(金)、ようやく第1回の実行委員会が開催され活動開始した。

実行委員会に集まった中学生は5名。開始したものの、途中からの参加も大歓迎とのこと。君もチャレンジしてみないか!!

平成 21 年度菅生中学校区地域教育会議委員

議長：芝原 尚子（公） 副議長：菅野 礼子（公） 板津 昌且（自）

事務局長：生駒 みを（公） 会計：篠澤 惺子（公） 当番校：菅生中学校

委員長（公）公募（P）PTA（自）自治会（子）子ども会（防）防犯委員（青）青少年指導員

	生涯学習 委員会	地域教育学習 委員会	情報 委員会	子ども会議	宮前区地域教育会議 担当
選出委員	秋山かつ枝（公） 山田 千鶴（公） 工藤文比古（公） 伊藤千代子（公） 大野 貞代（公） 田中 純子（公） 花里 真里（公） 山田 和穂（公） 丸井 祐二（P） 日笠佐奈恵（P） 秋元 澄子（P）	古川ツグ子（子） 瓜田 育美（公） 西村 雅一（公） 菅野 礼子（公） 花谷佐智子（公） 佐藤由美子（P） 小関 裕美（P） 五十里一美（P） 俵 直子（P） 板津 昌且（自） 丸山 量子（子） 新井 通夫（防） 服部 征男（防） 石田 一豊（青） 甲田 純也（青）	弦巻 達也（公） 石田千恵子（P） 黒川久美子（P） 鈴木 千晴（P） 黒澤 克實（公） 芝原 尚子（公） 篠澤 惺子（公） 丸山 幸一（自） 生駒 みを（公）	生駒 みを（公） 佐藤 利枝（公）	篠澤 惺子（公）
非選出委員	田巻 真 （菅生小）	小柳津 百合子 （子育て支援センターすがお） 和泉 君江 （蔵敷こども文化センター） 小松原 明恵 （菅生中）	針山 直幸 （菅生こども文化センター） 小柳 俊子 （菅生分館） 菅原 節子 （稗原小）	植村 知幸・川原 篤 （菅生中） 田巻 真 （菅生小） 松浦 徹 （稗原小）	
菅生小学校：[校長]柴寄 淳 [教頭]沢田 明真左 [教諭]田巻 真 稗原小学校：[校長]岡部 養一 [教頭]水沼 富士位 [教諭]菅原 節子・和泉 千代子・稲生 佳世・松浦 徹 菅生中学校：[校長]松井 隆夫 [教頭]太田 啓子 [教諭]小松原 明恵・植村 知幸・古頭 一也・川原 篤					

△総会学習会より△
大枝奈美さんを迎えて「ファシリテーション入門」～創造的な活動のために～

地域教育会議はもちろん、学校教育、社会教育の現場などで、さまざまな活動を進めるために会議や話し合いは大事なツール。大きな声の人の意見だけが通ったり、十分な議論もしないまま多数決でものごとが決まると、参加意欲が減退したり、参加者全員の意見を反映しない活動になってしまいます。

そこで今回は、ファシリテータの大枝奈美さんをお招きし、参加者一人ひとりの思いや経験や知恵を活かしながら、創造的な活動へとつなげるための手法としてワークショップの進め方についてお話しいたきました。

ワークショップは参加者全員の思いを出し合い、「気づき、学び、合意形成や問題解決」していきますが、進行役であるファシリテータは、参加者が「笑顔で、言いたいことを言い、聞きたいことを聞き、納得でき

るように」場を支えます。ファシリテータは単なる進行役ではなく、「目標を明確にし、枠組みを提示し、資料など十分な準備や約束ごとの共有」を図り、参加者が安心して参加できるようにします。このとき、あくまでも「何を考え、何を話し、何を決めるか」は参加者が主体であり、ファシリテータの役割は「どう考えるか、どう話し合うか、どう決めていくか」の段取りをつけて、参加者が話しやすく、考えやすい状況に配慮します。ファシリテータは参加者一人ひとりの体験や意見の違いを受けとめることがポイント。こうして参加者は学び、気づきを体験しながら課題への解決に向き合うことができます。一人ひとりを大切に、他の人を知り、力を合わせるというファシリテーション・センスが、真に自立・自律した個人の集合である社会を形成するという事です。

第6回

菅生音楽祭



12月5日(土)

たのしいひとときを

主催：菅生中学校区地域教育会議地域教育学習委員会
 開場：午前 9時30分
 開演：午前10時
 場所：菅生中学校体育館

入場無料
豚汁(ご飯付き) 200円